

文化企画を通じて人同士のつながりの構築を目指す「すわこ文化村」は、8月7日に岡谷市長地権現町の諏訪湖ハイツで、今春公開されたドキュメンタリー映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」の上映会を開く。日本原水爆被害者団体協議会（被団協）事務局次長の藤森俊希さん（72）＝茅野市湖東白井出＝は、「映画を通して低線量被ばくの影響や、核廃絶について考えてほしい」と観賞を呼び掛けている。

映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」

来月7日に上映会

くの影響や、核廃絶について考えてほしい」と観賞を呼び掛けている。

映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」

シマ」は、フランス人のマルク・プティジャン監督が肥田舜太郎医師（99）の言葉を追ったドキュメンタリー。肥田医師は陸軍

岡谷で来月7日上映



広島の問題」と話す藤森さん（右）

諏訪地方の有志でつくるグループ「すわこ文化村」は8月7日、原爆被爆者の治療を続けた医師肥田舜太郎さん（99）＝埼玉県＝の足跡を追うドキュメンタリー映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」の上映会を岡谷市の諏訪湖ハイツで開く。代表理事で弁護士の毛利正道さん（66）＝岡谷市＝らが20日に市内で記者会見し、「原爆が人類の生存に対する攻撃だということや、原発再稼働について考える機会にしてほしい」と、来場を呼び掛けた。

肥田さんは広島市出身で、自身も被爆。被爆者の治療に携わる傍ら、原爆投下後の広島で放射性物質を吸い込んで被ばくした人たちの存在

を1970年代に国連などで指摘し、核兵器廃絶を訴えてきた。映画は80分で、フランス人のマルク・プティジャン監督が2015年に制作した。

会見に同席した日本原水爆被害者団体協議会事務局次長の藤森俊希さん（72）＝茅野市＝は、「現在も苦しむ被爆者がいるのが現実。将来に関わる問題として考えてほしい」と話した。

上映は午前10時、午後1時半、5時の3回。各回終了後に参加者同士で1時間ほどの意見交換も予定している。参加費1000円、中学生、高校生、大学生は500円。問い合わせはすわこ文化村（☎080・1040・7463）へ。



映画の観賞を呼び掛ける被団協事務局次長の藤森俊希さん（左）

後から被爆者救援るきっかけにしてほしい」（毛利正道代表理事）と上映を企画。映画は上映時間80分で、7日は午前10時、午後1時30分、午後5時の3回上映する。各回とも上映に合わせて約1時間、意見交換の場も持つ。参加費は1000円（中々大学生500円）。問い合わせはすわこ文化村（☎080・1040・7463）へ。

軍医として広島に原爆が投下された時、広島市郊外の戸坂村へ往診中に自ら被ばくしつつ、直

すわこ文化村では、「広島・長崎の原爆の日に合わせて、放射線被害や核廃絶について考え

（新保修一）